在学生の活躍

引地正之
（昭和 41 年度英米語学科卒・
海外事情研究会 OB）

ブラジル日本語センター派遣の「第七回ふれあい日本の旅」ブラジル人高校生 25 人（引率ブラジル日本語センター副理事長志村マルガレッテ先生）が 7 月 7 日（土）京都外国語大学を初めて訪問して、京都外国語大学学生達と交流を行いました。



一行は 4 号館でブラジルポルトガル語学科 4 年次生澤邉優子、同学科伊藤秋仁教授の歓迎の挨拶の後、ビデオで京都の文化・歴史ついて学び、京都外国語大学の紹介を受けた後、総合企画室村岡課長の案内で 4 号館を見学しました。　その後、コンパーニョに移動して昼食を兼ねてブラジル人高校生と京都外国語大学学生と交流を行いました。



「ふれあい日本の旅」ブラジル人高校生 25 人一行が京都外国語大学を訪問するにあたり、ブラジルポルトガル語学科の学生を中心としたヴィンクロ・ジ・ラチーノ、ブラジルポルトガル語研究会、及び海外事情研究会の学生達が、半年前から会合を重ねて歓迎準備を行ってきました。



昼食を兼ねた交流会では、ブラジル人高校生と学生がグループに分かれてそれぞれのテーブルで、昼食を楽しみながら、ポルトガル語・英語・日本語を話して交流を深めました。

交流もたけなわになり、ふれあい日本の旅ブラジル人高校生代表マリーナ・アヤ・サカモト嬢が大変上手な日本語で挨拶をして、高校生全員がダンスをしながら歌を披露しました。

交流会最後には、高校生からはブラジルコーヒー・お菓子などを京都外大生に、学生からは大学のT―シャツ、京都の小物扇子、校友会寄贈のバッグ、日伯両国旗をあしらったこいのぼり（㈱徳永こいのぼり寄贈）のプレゼントの交換を行い、交流会は友好的な楽しい雰囲気の内に終わりました。

京都外国語大学での交流会を終えて、ふれあい日本の旅の高校生は、「八つ橋庵とししゅうやかた」に移動して、店の担当者から指導を受け思い思いに八つ橋つくりを体験しました。



交流会の代表を務めた澤邉優子（ヴィンクロ・ジ・ラチーノ代表）は、「ブラジルの高校生を京都外国語大学に迎え交流が出来て、私たち学生にとって貴重な体験が出来ました。今後も日伯友好親善の為に努力したい。」と感想を述べた。

